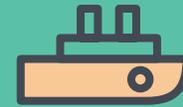


モバイルデバイス



管理ソリューションの切り替えに関するマイグレーションガイド

Gartnerの2015 Data Center Conferenceにおいて、モバイルデバイス管理(MDM)ソリューションを使用している組織のうち**60%** 近くが満足しておらず、現在のプロバイダーとの契約解除を検討していることが明らかになりました。

皆様はいかがでしょう？

MDMプロバイダーの乗り換えには多くの理由があります。現在のプロバイダーでは期待どおりのサポートが得られない、単にもっと堅牢なツールが必要であるなど、ベンダーの乗り換えが必要な状況が、どうしようもない状況や悲惨な状況であるとは限りません。

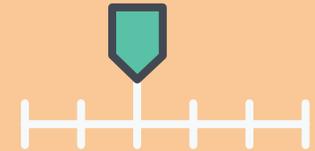
Apple専用ソリューションでiPadとMacの持つ能力をさらに引き出す

5,000校近くの学校で導入され300万人の生徒が利用しているApple管理ソリューションであるJamf Proのメーカーである当社は、iPadやMacデバイスをJamfにスムーズに移行できるようにたくさんの組織を支援してきました。Jamfに移行した学校のうち93%が、契約満了時に更新しています。

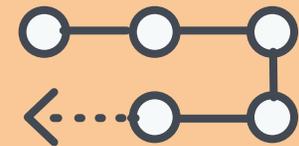
これらの学校はどうやってJamfに乗り換えているのでしょうか？

このガイドでは、MDMの移行に伴う変化に備えて、教授や教諭や生徒が混乱しないような方法で移行するために必要な手順を説明しています。

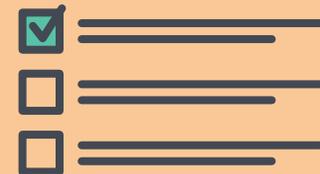
具体的には...



重要なチェックポイントを含めた導入スケジュール。



確実に移行を成功させるための段階的ワークフロー。



適切な移行状態を確認するための移行後チェックリスト。

管理可能なスケジュールで確実に導入

MDMソリューションへの切り替えを決定したら、最初の手順として、論理的で実現可能なスケジュールを構築します。スケジュールには、重要マイルストーン、経済的配慮、学校の休日、実装の成功に影響する可能性のあるその他の要素を盛り込みましょう。デバイスが使用できなくなる時期については、IT担当者が十分な時間を使ってユーザーに影響を与えることなく導入を行えるように厳選してください。

- 1台のデバイスに同時に存在できるMDMプロファイルは1つのみです。つまり、新しいMDMプロファイルに登録する前に既存のものを削除する必要があります（詳細は後述）。
- スケジュールの構築をお手伝いするために、当社はJamfへの乗り換えられた複数のお客様にご意見を伺いました。そしてお寄せいただいたご意見に基づき、MDM導入のためのモデルスケジュールを作成したのです。
- ソリューションの購入から導入の完了までの時間を十分に確保することをお勧めしておりますが、このプロセスは、ご希望に合わせて早く、または遅く開始することができます。学校での使用初日にミスがあれば感知できるようにするために、導入プロセスの中で実施するテストの時間を十分に確保しておくことが重要です。

秋

第1日 MDMの新規購入
あなたの新しいプロバイダに署名した注文書。

第2日 ライブプレミアへの出席
実稼働サーバーが必要となる前に、実装をスケジュールします。

第1週 — インフラストラクチャの準備
必要に応じて業務環境を整えます。ホストソリューションを利用する場合には無視してください。

第1週 — 文書作成ワークフロー
現在のMDMの使用状況に関する詳しい資料を検討し編集します。

第2週 — アセットのエクスポート
現在のMDMからアセットを削除して新しいMDMへの移行に備えます。

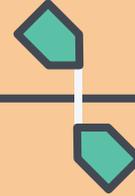
第3週 — デバイスデータの保存
保存すべきデータを見極め、その保存方法と保存場所を選択します。

冬



第4週 - デバイスの回収(該当する場合)

C学校の終業日の前日にデバイスを回収します。夏休みの間も生徒がデバイスを持ち帰れるようにする場合には、iPad内のデータが消去されリセットされてアクセスできなくなることを生徒に知らせておいてください。



第4週— 現MDMからのデバイス登録の解除

Appleのデバイス登録プログラム(DEP)と一括購入プログラム(VPP)のトークンを譲渡して(該当する場合)各デバイスをリセットします。

春



第5週- Jamf Proへのデバイス登録

以前のDEPとVPPのトークンを割り当て(該当する場合)、情報をインポートし、新しいMDMにデバイスを登録します。



第5週 - デバイスの配布

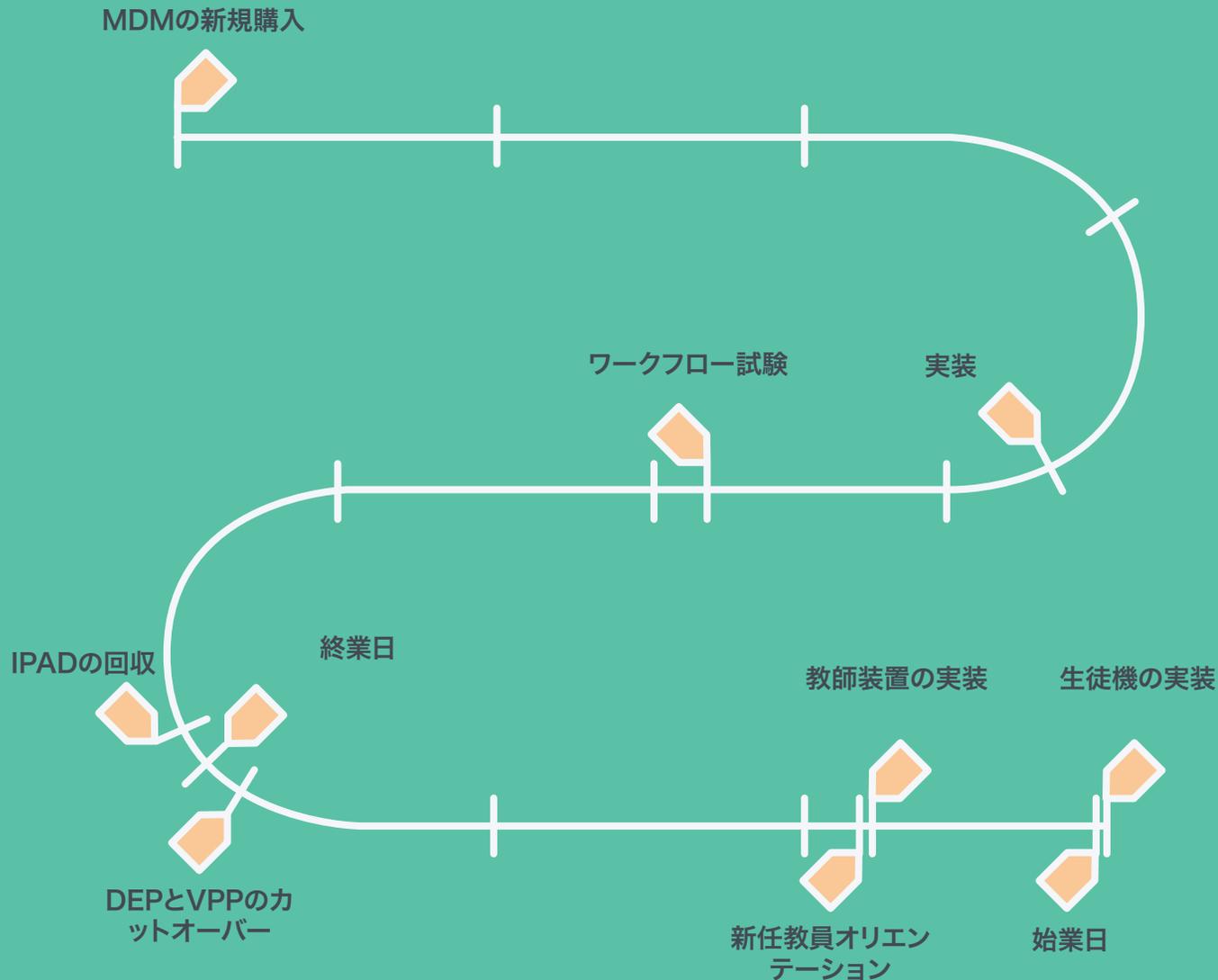
新規登録されたデバイスへの完全アクセス権を教員と生徒に与えます。

第6週 - 導入後のチェック

デバイスインベントリをチェックしてデータ移行とデバイス登録を確認します。



ミネトンカ公立学校における実際の移行スケジュール



DEP、VPP、Apple スクールマネージャー とは？



Appleのデバイス登録プログラム (DEP) は、Appleを通じて購入したデバイスのセットアップアシスタント中に行うMDMへの登録を自動化します。Appleの一括購入プログラム (VPP) では、学校がAppleアプリストアからアプリを一括購入できます。DEP/VPPとManage Apple IDはいずれもAppleスクールマネージャーの一部になっています。スクールマネージャーはiOS 9.3とともにプレビュー版として発売され、2017年には汎用版として拡張されました。

MDM移行の準備

移行の対象がMacかiPadのいずれかの場合でも両方の場合でも、このガイドを使用できます。iOSの場合は下記の手順に従って処理します。Macの場合は導入プロセスがさらに簡単です。

まだ準備ができていない場合...



新しいMDMを仕様に合わせて構成する時には必ず事前に、導入に向けて現在の管理ソリューションの準備を整えておく必要があります。MDMの現在の使用方法と重要フローワークの特定方法に関して詳しい資料をまとめておきましょう。

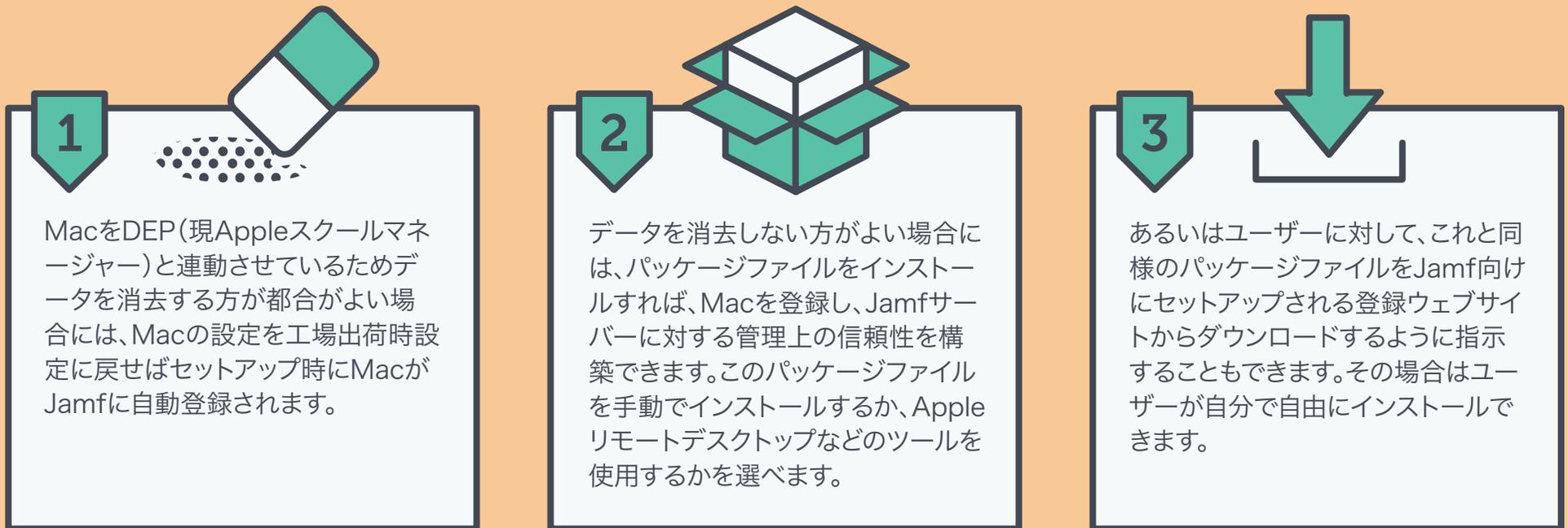
これは、既存のMDM戦略を再評価して、相違点と改善できる可能性のある分野を明確にすることができる絶好のチャンスでもあります。資料をまとめたら、現在のMDMからアイテムを削除して新しいソリューションでそれらを再構築する準備を整えるためのプロセスを開始します。



MDM移行の準備

Macの場合

Mac管理用のJamfは、管理用エージェントをインストールすることでMDMの一步上を行います。つまり、Macを管理下に置くためにMacのデータを必ずしも消去する必要はないのです。組織は次の3つの方法でMacの切り替えを開始できます。



注意: 上記の最初の選択肢では再フォーマット時に古いMDMが削除されます。2つ目と3つ目の選択肢では、Jamf経由でコマンドを送信すると古い管理ツールが削除されます。これはJamfがユーザーの代わりに実行します。

エンドユーザーによる移行準備

デバイスユーザーが貴重なリソースと大切な授業時間を無駄にすることがないようにするには、MDM切り替えプロセスの透明性が重要になります。したがって変更内容と関連プロセスを早い段階でユーザーに知らせましょう。

通信に関する検討事項



最後の項目は、特にユーザーが各自のデバイスのデータを消去してデバイスを再登録するよう求められる場合に非常に重要になります。これは手動プロセスですので、デバイスのデータの消去とデバイスの再登録をユーザーに実行させることはお勧めしません。生徒が管理へのデバイス登録を解除できないようにするために、

ほとんどの学校でこの機能は無効にされているのが現状です。ただし生徒と教員をこのプロセスに参加させたい場合には、彼らが各自の役割を十分に理解できるように段階的な完全ガイドを作成してください。そうすることで、多くの学区のユニオンが抱える問題の解消に役立つことでしょう。

段階的ワークフロー

スケジュールをよく考え、適切な資料をそろえて関係者への通知を終えたら、1つのツールからではなく新しいツールでデバイスを登録します。



ステップ

1

以下を含むアセットをエクスポートします。



- ・ Wi-Fiプロファイル
- ・ セキュリティ認証
- ・ スクリプトまたは他のワークフローオブジェクト
- ・ パッケージとアプリ
- ・ デバイスインベントリ
- ・ 構成プロファイル
- ・ グループ会員とユーザー

ご自身のデータもお忘れなく

新しいMDMにデータを移行する準備も必要です。DEPまたはAppleスクールマネージャーに登録されているiPadデバイスに移行処理をする時には、そのデバイス内のコンテンツを全て消去したいものです。

消去する場合は事前に、保存しておく必要があるデータとその保存方法を決めておきます。対象デバイスにどのようなデータが保存されているのか、そして別の場所でホストされているデータは何かを考慮してください。例えば、電子メールはIMAPまたはExchangeサーバーに保存されることが多いので、デバイスのセットアップ後に簡単に再ダウンロードできます。それ以外のファイルは、クラウドサービスに保存しておけば選択時に検索できます。



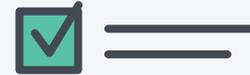
段階的ワークフロー

ステップ

2

ユーザーがデータをバックアップすることを当てにせず、推奨クラウドストレージサービスにデータを保存します。クラウドストレージのプロバイダーは例えば次のものがあります。

- ・ iCloud
- ・ Dropbox
- ・ Box
- ・ Google ドライブ



注意: デバイス上でのiCloudバックアップの復元により、過去に学校で問題が発生したことがあります。このステップを実行する時に疑問がございましたら、Jam Nation等のApple ITコミュニティに相談をして支援を受けるか、Jamfに直接お問い合わせください。

注意: 現在お使いのソリューションがアクティベーションロックのリセットに対応していない場合には、デバイスを回収する前にユーザーがiCloudからログアウトしているかを確認してください。

アクティベーションロックも忘れずに!

デバイス内のデータを消去する時、一部のMDMプロバイダーはアクティベーションロックを自動的にリセットします。これは、iPadやiPhoneが紛失したり盗まれたりした時に他人にアクティベートさせないようにするiOS 7の機能です。可能な限りデバイスの安全を確保するために、MDMをテストしてアクティベーションロックのリセットが自動かどうかを確認してください。これは多くの場合、エスクローしたFileVault暗号化キーにも当てはまります。

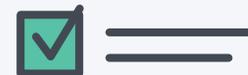
段階的ワークフロー

ステップ

3

現在のMDMからの登録解除

アセットのエクスポート、データの保存、ユーザーへの移行通知を終えたら、現在のMDMからのデバイスの削除を開始します。方法が2つあり、デバイスの登録にAppleスクールマネージャー(旧DEP)を使用したかどうかによっていずれかを選ぶ必要があります。



オプションA DEPまたはAppleスクールマネージャーを使用した場合

1 DEPとVPPのトークンを新しいMDMに移動する

- ・ DEPTトークンは学校で購入した全てのデバイスの記録です。
- ・ VPPトークンにより、全てのアプリ購入が記録されます。

2 デバイスの登録を解除するか、デバイスのデータを消去する

一括消去コマンドを使用します。これを現在のMDMに送信する最終コマンドにすることができます。このプロセスを自動化することで、全てのデバイスの適切な消去と登録解除が確実に実行されます

_____ または _____

生徒と教員それぞれに、設定アプリ内のすべてのコンテンツと設定情報を消去することで各自のiPadをリセットしてもらいます。アクティベーションロックが無効になっていることを保証する方法を確保してください。

SSIDが消去時に失われるため、エンドユーザーはセットアップ時に、ワイヤレスネットワークに参加する必要があります。さらに、デバイス内のデータを消去するとDEP機能が開始されます。

オプションB DEPまたはAppleスクールマネージャーを使用していない場合

1 デバイスの登録を解除するか、デバイスのデータを消去する

現在のMDMにより一括消去コマンドが提示されている場合には、それを使用します。これを現在のMDMに送信する最終コマンドにすることができます。このプロセスを自動化することで、全てのデバイスの適切な消去と登録解除が確実に実行されます。

_____ または _____

生徒と教員それぞれに、設定アプリ内のすべてのコンテンツと設定情報を消去することで各自のiPadをリセットしてもらいます。アクティベーションロックが無効になっていることを保証する方法を確保してください。

DEPまたはAppleスクールマネージャーを使用していない方が移行完了までの手順が少ないように思われるかもしれませんが、実際にはその逆です。

このプロセスは手動であり、各デバイスに物理的に接触する必要があります。iPad1台につき30秒~1分程度かかるため、すぐに数時間が経過してしまいます。DEPまたはAppleスクールマネージャーを使用すれば、この作業が自動化され、デバイスに触れる必要もありません。

段階的ワークフロー

ステップ

4

JAMF PROの導入

いよいよ、Appleデバイスを新しいMDMソリューション、つまりJamf Proに正式に移行します。念を押しますが、ステップ3で選択した方法は、Appleの導入プログラムを使用しているかどうかによって左右されます。



オプションA

Appleの導入プログラムを使用している場合

1. 以前のDEPとVPPのトークンをJamf Proに割り当てる

- DEPトークンにより、組織が所有しているデバイスが特定されます。このトークンを新しいソリューションに移行すると、各デバイスの割り当て処理が自動化されます。
- VPPトークンを新しいMDMサービスに追加すると、古いMDMの全てのデバイスからそのアプリが削除されます。そのアプリの所有権は完全な状態で残ります。トークンをJamfにアップロードすると、すべてのアプリを購入し直すことなく再度割り当てることができます。

2. 以前に古いMDMからエクスポートした情報をインポートする

- この作業にはカスタムスクリプトが必要になることがありますので、インポートする前に必ずテストしてください。

3. プレステージ登録を作成する

- プレステージ登録時に「監視」ボックスにチェックマークを入れます。

オプションB

Appleの導入プログラムを使用していない場合

1. 該当しない

移行作業を手動で行っており、Appleの導入プログラムを使用していないためです。

監視とは？

監視機能により、iPad管理レベルが、単にMDM登録を使用している場合よりも高くなります。監視機能を使わない場合、iPadのカメラをブロックできず、またAppleのクラスルームアプリを用いてアプリやSafariウェブページに生徒をロックすることもできません。



段階的ワークフロー

ステップ

5

デバイスの再登録

最後のステップは、Jamf Proでデバイスを再登録してデバイスの管理を開始することです。アップルのデプロイメントプログラムを利用している場合、これは非常に簡単なプロセスです。手動プロセスの場合は、Apple Configuratorの手順に従います。



オプションA

Appleの導入プログラムを使用している場合

1 デバイスを管理に再登録する

- 生徒と教員の全員がしなければならないことは、まずデバイスのスイッチを入れ、自動登録されたら、セットアップアシスタントを通じて短いセットアッププロセスを順を追って進めることです。
- そしてデバイスが登録されたら、プロファイル、アプリ、構成、リソースを新しいソリューションに導入できます。

注意: アプリとリソースを生徒が使える状態にするには少し時間がかかるかもしれません。どのくらいかかるかは、導入する必要のあるアプリの数によって異なります。

注意: 登録時はオープンWi-Fiネットワークを使用してください。生徒はお使いのネットワークに接続され、登録処理が阻害されません。

オプションB

Appleの導入プログラムを使用していない場合

1 Appleコンフィギュレーターで登録する、またはユーザーにウェブURLを開いてもらう

こちらの方が完了までの手順が短いように見えるかもしれませんが、デバイス1台ごとに5つの手順を実行する必要があります。これとは逆に、Appleの導入プログラムを使用すれば全デバイスの登録処理を1つの手順で完了できます。

この方法では、スタッフが時間をかけ、各デバイスを手動操作して新しい管理ソリューションに登録しなければなりません。

警告: Appleの導入プログラムを使用しない場合、生徒側でiPadのIT設定を元に戻して管理されない状態にすることができます。

デバイス導入を越えて

生徒と教員がデバイスを使いこなせるようにする

できるだけ早くiPadデバイスを生徒と教員の手へ渡せた方が良いでしょう。学校の始業日の前に渡せるのが理想です。特に、事前設定されたアプリを学校側が提供して生徒の各デバイスでそれをロードする場合には、早く渡せる方が良いでしょう。デバイスを事前に渡せると、始業日までに各iPadをテストして全てのアプリがダウンロードされていることを確認できます。そうすることで、教員と生徒がテクノロジーではなく授業に集中できます。

導入後のチェック

導入後はすぐに、エクスポートしたデバイスインベントリをJamf Proのデバイスインベントリと比較して、すべてが適切に登録・移行されていることを確認してください。このタイミングで、生徒に、iCloudまたはManaged Apple IDを使用してiPadにログインし、クラウドホスト型のデータを適切なアプリに復元してもらってください。



優れたソリューションにシームレスに移行するノウハウ

MDM導入の着手は難しいと思われがちですが、このガイドがあれば必要な知識と自信が身に付き、旧ソリューションを排して、常に求められる機能を備えた新ソリューションに移行することができます。Jamfでは移行中に置いてけぼりにされることはありません。JumpStartという実装プロセスから、全Apple機能に関する当社の世界クラスのサポート、プロフェッショナルサポート、ゼロデーサポートまでご用意しており、スムーズな移行の実施中と実施後にすぐに必要となるリソースを確実にお手元にお届けします。

デモを依頼する

